多様なバックグラウンドを持つ学生を対象とした新規事業創出グループワークの構築について
: Skyward EDGEコンソーシアム コンソーシアム合同プログラムを例に

文部科学省 次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）　Skyward EDGE コンソーシアム

髙田祥三・島岡未来子　（早稲田大学）
〇高輪めぐみ・上島早織（株式会社早稲田大学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｿﾘｭｰｼｮﾝ）

背　景

- EDGE-NEXTではコンソーシアムを形成してイノベーション教育やアントレプレナー育成に取り組んでいるが、コンソーシアムとして取り組む具体的なメリットは何なのか、それをどう広く示していくかについては課題となっている。
- 早稲田大学を主幹とするSkyward EDGEコンソーシアムでは2018年度より担当教職員間で検討を行い、2019年度にはコンソーシアム構成機関の学生を対象とした合同プログラムを実施した。
- 本発表では、合同プログラムの検討段階からの取組の紹介と実施後のアンケート結果からみる効果、今後の課題を紹介する。

概　要

・2018年8月　第1回目
Skyward EDGEコンソーシアム全体で相互連携に関する課題の共有をおこない、既存のプログラムに他大から受講生を送るだけでなく、コンソーシアム全体でプログラムを作り上げることが課題として挙がる

・2018年9月　第2回目
合同プログラムに期待する成果、提供できるもの、他大から提供してもらいたいもの等をまとめたものを持ち寄り、2グループに分けてグループワークの実施

・2018年11月　第3回目
グループワークを全体で振り返り、実施案の整理

⇒まず教員を対象とした研修を実施し、学生への適用を検討しよう

プログラムの企画・設計

■ 日　時 ：2019年8月28日（水）～8月30日（金）
■ 場　所 ：山形県飯豊町
■参加者 ：滋賀医科大学：学生3名、教員2名、
東京理科大学：学生4名、　山形大学：学生4名、教員2名、
早稲田大学：学生4名、教員1名、多摩美術大学：学生4名
飯豊町の方（地元企業、町役場）6名

■ワークショップ目標：飯豊町のリソースを活用し、『移住者が飯豊町で行う事業』と『移住者と大学生が飯豊町で行うイベント』の提案

飯豊町見学

大学混合チームでのグループワーク
学生チームには各チームに飯豊町の方も参加、教員は教員チームにて参加

地域の方も招いての最終発表

学生への適用

■ 日　時 ：2019年3月17日（日）10:00~ 18:00
■ 場　所 ：山形県飯豊町
■参加対象：コンソーシアム各機関のSkyward EDGE実行委員を含む教員、飯豊町役場職員、若手研究者
■研修参加者：計20名

■ワークショップテーマ：「大学生が飯豊町で行う協働プログラムの内容・活動をデザインするワークショップ」

コンソ全機関から参加者が集まり、飯豊町役場全面協力（実施会場提供、見学ツアー開催等）で実施

教員を対象としたプログラムの実施

YUKIMURO(自然エネルギー低温貯蔵施設）見学

木質バイオマス製造施設見学

参加関係者によるレビュー

i.school 堀井先生によるワークショップ

ワークショップ後の参加関係者によるレビュー

- 1日で実施するのは時間的に難しい。数日かけて実施する場合、どの時期だと学生は参加しやすいか
- 飯豊町の方（地元企業、町役場）も参加いただけたらよいかもしれない

結果・考察（アンケート結果より）

ワークショップ内容

	そう思わない	あまりそう思わない	どちらともいえない	ややそう思う	そう思う
地域（飯豊町）が抱える問題について理解できた	0	1	0	16	15
地域活性化に興味がわいた	0	0	3	13	16
このプログラムに参加したことにより地域についての 印象が変わった	0	1	4	12	15

	そう思わない	あまりそう思わない	どちらともいえない	ややそう思う	そう思う
満足できる発表ができた	1	5	5	12	9
地域課題解決に向けた具体的なアイデアが創出できた	0	2	4	14	12
内容が難しかった	4	9	6	9	4
時間が足りなかった	6	5	5	5	11

⇒「地域」についての理解は深まったが、プログラムの難易度の感じ方はばらつきがある

グループワーク

	そう思わない	あまりそう思わない	どちらともいえない	ややそう思う	そう思う
自分の意見を言いやすい雰囲気だった	0	3	2	11	16
協力して進められた	0	1	4	5	22
意見をまとめるのが難しかった	3	7	8	8	6
合宿形式でよかった	0	0	3	4	25
メンバーの多様性が高かったのが良かった	1	0	0	6	25

- 自分の意見を広げてくれる人や指摘してくれる人がいる事で、自分を変える事ができたかなと思った
- 個性や専門性を活かして、意見を出し合えた
- 変な発言しちゃうかな…という不安しかなかったので発言しにくかったのと、否定ばかりで発言しにくくて満足いかなかった。でもいい経験になった
- 大学によってモチベーションの差がかなり見られた

5大学合同であること

- 多様性は単科大学生にとってはうれしい
- 多用な目線からものごとを考えられる。そこにこそイノベーションが生まれると感じた。
- 同じ分野の人がいないため、自分の意見が誤っていたり、知識が不足していると、チームに迷惑をかけてしまう

⇒　異なるバックグラウンドを持つ受講生が集まることにより、個々の持ち味を活かしたグループワークとなった反面、モチベーションや参加スタンスに差も出た

今後への課題

- 異なるバックグラウンドの学生が集まることで、1大学だけでは生み出すことの難しい多様性を生み出すことができた。
  ⇒ 多様性ができた分、チームビルディングの導入などグループワークへの臨み方に対してフォローが必要

㈱早稲田大学アカデミックソリューション（WAS）では、早稲田大学からの委託によりWASEDA-EDGE人材育成プログラムの運営支援をおこなっております。
本発表は、 プログラムの企画・設計をおこなったWASEDA-EDGE人材育成プログラム担当教員了承のもとプログラムの運営支援及びアンケート調査を行ったWASより発表しております